

1	<p>【読み(漢字の右)】</p> <p>孫子荆年少<small>キ</small>時、</p>	<p>【書き下し文】</p> <p>【現代語訳】</p>
2	<p>欲<small>ス</small>隠<small>レ</small>語<small>ニ</small>王武子<small>ニ</small>、</p>	
3	<p>当<small>ニ</small>枕<small>シ</small>石<small>ニ</small>漱<small>カントス</small>流<small>トイフ</small>、</p>	
4	<p>誤<small>リテ</small>曰<small>ハク</small>、「漱<small>ギ</small>石<small>ニ</small>枕<small>セント</small>流<small>レニ</small>。」</p>	

5	<p>王曰、「流<small>ハク</small>可<small>レ</small>枕<small>ハク</small>石<small>ス</small>可<small>ハ</small>漱<small>キ</small>乎<small>ト</small>。」</p>	
6	<p>孫曰、 「所<small>ヲ</small>以<small>ハ</small>枕<small>スル</small>流<small>レニ</small>、欲<small>ナリ</small>洗<small>ハント</small>其耳<small>ノヲ</small>。」</p>	
7	<p>所<small>ヲ</small>以<small>ハ</small>漱<small>グ</small>石<small>ニ</small>、欲<small>ナリト</small>礪<small>カント</small>其齒<small>ノヲ</small>。」</p>	

1	<p>【読み(漢字の右)】</p> <p>そん し けい とし わか 孫 子 荆 年 少 時、</p>	<p>【書き下し文】</p> <p>孫子荆年少き時、</p>
2	<p>ほつ ス レント ルニ おう ぶ し ニ 欲 レ 隠。 語 ニ 王 武 子、</p>	<p>【現代語訳】</p> <p>孫子荆が若い頃、</p>
3	<p>① くわす ざん トス まご ニ まくら ニ トク レニ ② 当 枕 石 漱 流、</p>	<p>隠れんと欲す。王武子に語るに、 (俗世を捨てて) 隠棲(遁世)しようと思った。 王武子に(その気持ち)を語ろうとして、</p>
4	<p>リテ いハク キ ニ セント レニ 誤 曰、「 漱 石 枕 流。」</p>	<p>① 当に 石に枕し流れに漱がんとすといふ ② べき に、 当然、石を枕として(眠り)川の流れ(水)でうがいをするつもりだと言うべきところを、</p>
4		<p>誤りて曰はく、「石に漱ぎ流れに枕せん。」と。 誤つて、「石でうがいをし、流れを枕しようと思つ。」と言つてしまった。</p>

5	<p>王 曰、「 流 可 枕 石 可 漱 乎。」</p>	<p>王曰はく、「流れは枕すべく、石は漱ぐべきか。」と。 王は、「流れを枕とすることが出来るのか。石でうがいをすることが出来るのか。」と言つた。</p>
6	<p>孫 曰、 「 所 以 枕 流、 欲 洗 其 耳。」</p>	<p>孫曰はく、「流れに枕する所以は、其の耳を洗はんと欲すればなり。 孫は、「流れを枕とするわけは、(俗事を聞いて汚れた)耳を洗おうと思つからだ。」</p>
7	<p>所 以 漱 石、 欲 礪 其 齒。」</p>	<p>石に漱ぐ所以は、其の歯を礪かんと欲すればなり。」と。 石でうがいをするわけは、(俗世のものを食べて汚れた)歯を磨こうと思つからだ。」と言つた。</p>

一、作品について

- 1 作品名 ()
- 2 編者 () 403～444
- 3 成立時代 中国 () 時代 444年
- 4 ジャンル ()
- 5 内容・特徴

- ・後漢から東晋までの貴族・僧侶・文人・名士などの () を集めた書物。

- ・三卷、三十六篇から成る。

- ・当時の人々の言動や思想などから、世相が表れる。

- ・三国時代の曹操、竹林の七賢(老荘思想) など。

6 この作品が出典となる故事成語 *読み・意味を調べよう!

① 漱石枕流

意味..

② 断腸の思い

意味..

③ 竹馬の友

意味..

二、() 漱石 (明治時代の小説家) *調べよう!

(1) 本名: ()

(2) 作品名: 『 』 『 』 『 』

*「漱石」をペンネームとした理由

[Empty box for writing the reason for the pen name]

三、登場人物

孫子荊

… (?～293年) 三国時代・西晋の政治家、武将。

名は「楚」、字は「子荊」。知識が広く、優れた

能力を持つ。四十歳を過ぎて、魏に仕えた。

王武子

…名は「済」、字は「武子」。孫子荊とは、同郷で親しい間柄であった。

十四、再読文字

「当」 当にべし 「当然べきだ」

◆◆ 故事成語（その他）

*読み・意味を調べよう！

*再読文字の読み方・書き方

① 返り点がついているが、先ず、(1) (側)の読み方で読む。書き下し文は(2) (側)を使って書く。

② 返り点に従って同じ漢字に返り、(3) (側)の読み方で読む。書き下し文は(4) (側)で書く。

【例】

① まさニ

当……… ↓ 当に……べし。

② ベシ

②

ガントス

ニ シ ニ トイフ レニ

当ニ 枕レ 石 漱ニレ 流

キニ

(1) 書き下し文

(2) 現代語訳

(1) 蛍雪の功 小 蛍の光窓の雪

【意味】

(2) 完璧

(3) 蛇足

(4) 水魚の交わり

(5) 背水の陣

(6) 大器晩成

(7) 五十歩百歩

(8) 温故知新

(9) 切磋琢磨

(10) 矛盾

(11) 破天荒

(12) 逆鱗に触れる

一 1 世説新語(せせつしんご) 2 劉義慶(りゅうぎけい)

3 南北 4 小説 5 逸話

6 ①そうせきちんりゅう

意味…負け惜しみの強いこと。無理なこじつけ。

②だんちよう「意味…腸がちぎれるほど」激しい悲しみ」

③ちくば「意味…幼友達」

二、夏目(1) 本名:金之助 (2)『吾輩は猫である』

『坊ちゃん』『こころ』『三四郎』など

*理由…自分自身を負け惜しみが強い人間だと思ったから。

四、枕・漱 / (1)「石に枕し 流れに 漱がんとす(といふ)」

(2)「石を枕として眠り)、川の流れ(水)でうがいをするつもり

だ(と言う)」 *隠者:(自然・隠者)

五、俗世との交わりを避けて、ひっそりと隠れ住む人。(隠遁者)

六、漱・枕 / (1)「石に 漱ぎ 流れに 枕せん」

(2)「石でうがいをし、流れを枕しようと思う」

七、川の流れ・耳 八、許由の故事・無理やりこじつけようとした

九、負け惜しみの強い性格。

十、①わかき ②ほつす ③いわく ④くちすすぐ

⑤べく(基本形「べし」) ⑥か ⑦ゆえん ⑧みがく

十一、「所_レ以_レ枕_レ流、欲_レ洗_レ其_レ耳。」と

「所_レ以_レ漱_レ石、欲_レ礪_レ其_レ齒。」

十二、(1) 流れは 枕す べく、石は 漱ぐ べきか。

(2) 流れを 枕とすることができ(る)のか。(石でうがいを することができ(る)のか。

十四、*①右 ②漢字 ③左 ④ひらがな

(1) 当に石に枕し 流れに漱がんとすといふべきに

(2) 当然、石を枕として眠り)、川の流れ(水)でうがいを

するつもりだと言うべきところを

◆◆ 故事成語(その他)

(1) けいせつのこう「苦労して勉強に励むこと。」

(2) かんぺき 「欠点がないこと。」

(3) だそく 「余計なもの。不要なもの。」

(4) すいぎよのまじわり「切っても切れない親しい関係。」

(5) はいすいのじん「追い詰められて後がないこと。」

(6) たいきばんせい「大物は後になって成功すること。」

(7) ごじつぽひやつぽ「大差がないこと。」

(8) おんこちしん「昔のことを学んで、そこから新しい知識

や見解を導くこと。」

(9) せつさたくま「互いに励まし合って向上すること。」

(10) むじゅん 「つじつまが合わないこと。」

(11) はてんこう「今まで誰もしなかった事を初めてすること。」

(12) げきりん「目上の人を激しく怒らせてしまうこと」